

事業所名	グループホーム みんなの家 いずみ ※
日付	平成20年3月6日
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	介護支援専門員・介護福祉士・認知症ケア専門士 介護支援専門員・介護福祉士
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります!) ※	

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 重度の認知症が多い中で、人間としての追求は、「いつも幸せ、ずっと幸せ、みんな幸せ」を目指している。 入居者の方も職員と一緒に、「自分の家」として自分たちの生活の場が楽しくゆったりと流れて行くように、一日でも長く充実した日々が過ごせるようにと願いながら、前向きな姿勢で取り組んでいる。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 一人一人の心に寄った生活支援をしていくように心掛けてきた中で、顔の動作や仕草のひとつひとつのサインを見逃すことなく、常に五感に働きかけていくことで、今何を望んでいるのか心身の残存能力を引き出しながらゆったりとした雰囲気の中でコミュニケーションに取り組んで行っている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

1. 評価結果の概要

講評 全体を通して (特に良いと思われる点など) 静かな田園地帯に囲まれ、ゆったりとした空気がホームの外からも感じられて来ました。 母体が「医療法人」と言う、安心出来る環境のもと、入居者さんは元より、職員さんの笑顔からも、健康で働きやすい職場であることが窺われてきます。 天気の良い日には、ホールからそのまま続いて出られるベランダでの、四季折々の自然の最高の絵画を鑑賞しながらのランチタイムやティータイムを行っている。 終末期のケアも充実され、御家族も安心できるホームとなっています。 特に良いと思われる点では ①入居者さんの自立支援に向けて、日常生活の中で無理強いをしないで、リハビリを兼ねて機能の向上を高めている。 ②ホーム内の空間の活用により、入居者さんの移動がスムーズに行えるような環境整備が出来ている。 ③職員研修および職員会議の充実により、日頃からケアの質向上に努めている。 ④入居者さんの重度化および医療依存度の高い人(終末期ケアへの対応)の取り組みも医療連携が確実に取れて、安心できる体制が整っている。
特に改善の余地があると思われる点 特に改善の余地は見られませんが、今後も今のサービスの質向上に努めて行って欲しい。

III ケアサービス (つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か これまで生活してきた職歴や生活経験をしっかりと理解したうえで、本人が一番活かしたい能力を引き出せるように取り組んでいる。 また、入居者同士の交流や本人の意見を尊重し、個々の自由な時間を大切に支援している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 小さな表情や仕草からのサインを見逃さないよう日常生活全体の中で気をつけて、ケアの質向上に努めている。また、スタッフミーティングを行うことで、入居者が安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。		